

教科名 **技術・家庭** 科

1 授業改善の視点とその方策

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none"> ○実習の授業では特に、グループワークを中心に、お互いに教え合いができるような展開を工夫する。 ○視聴覚教材を利用することで、視覚的にわかりやすい授業展開をする。 ○安全な授業、実習を行うために、教室環境の整備や消耗品、備品の整理をし、生徒目線で整理していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実習の授業では特に、グループワークを中心に、お互いに教え合いができるような展開を工夫する。 ○視聴覚教材を利用することで、視覚的にわかりやすい授業展開をする。 ○安全な授業、実習を行うために、教室環境の整備や消耗品、備品の整理をし、生徒目線で整理していく。 ○調理実習では、生徒の動線を考えた用具や材料の配置を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実習の授業では特に、グループワークを中心に、お互いに教え合いができるような展開を工夫し、作業の能率が上がるように援助する。 ○視聴覚教材を利用することで、視覚的にわかりやすい授業展開をする。 ○安全な授業、実習を行うために、教室環境の整備や消耗品、備品の整理をし、生徒目線で整理していく。

2 生徒の変容の状況および成果

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none"> ○指導内容が十分理解できていない生徒の効果的な支援方法として、学習支援員の活用が有効であった。 ○グループで作業を行うことで、教え合いができる生徒がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○工具・機器・刃物の取り扱い方を作業開始前に指導し安全に作業をすることを意識する生徒が見られた。 ○くり返しの作業を行ったことで工具・道具の使用についての理解が深まった。 ○毎回、持ち物の確認をし、忘れ物なく授業に取り組む姿勢を身に付けられた生徒がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○静かに作業や課題に取り組むことができています。 ○視覚的に説明することにより理解が深まる生徒がいた。

3 次年度に向けての課題

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none"> ○既習事項と作業内容が作業を通して定着するように指導の工夫を行う。 ○第1学年では、学習に臨む姿勢など、授業に対する取り組みの方法や要点を丁寧に教える必要がある。 ○グループ作業など、教え合いができるようになってきたので、グループ学習ができるように授業を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習事項と作業内容が作業を通して定着するように指導の工夫を行う。 ○欠席やその他の理由で作業が遅れた生徒や実習に参加できなかった生徒への配慮の工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作業内容が十分理解できていない生徒の効果的な支援方法が課題である。 ○毎回、授業内容を把握させ意欲的に授業に臨めるように、教材の工夫やICTなどを活用する。 ○3年間を通しての学習内容をまとめられるように授業を工夫する。